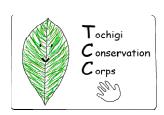
特定非営利活動法人 ト チ ギ 環 境 未 来 基 地

平成23年度 事業報告書 (ダイジェスト版)

~ 栃木県内での環境保全活動と、福島県いわき市での復興支援活動 ~

特定非営利活動法人

トチギ環境未来基地



1. トチギ 環 境 未 来 基 地 、活動の背景

□ 日本の森林の現状

日本の国土面積に対する森林の割合(森林率)は、67%で、先進国では世界第2位です。森林面積は2500万haで、そのうちの4割1000万haが人工林です。特に戦後の復興に木材が不足したことから、1960年代に拡大造林政策が行われ、生長の早いスギやヒノキ等の針葉樹が植えられました。木材としての利用の他、生物多様性保全や、土砂災害防止、地球温暖化防止、保健・レクリエーション機能など、森林が持つ公益的機能は価値が高いです。

しかしながら、林業経営者の高齢化や後継者不足によって、 手入れが行き届かなくなっている森林が増加しています。 また林業従事者の高齢化も進み、若者の担い手の育成が 大きな課題の一つとなっています。森林のみならず、 自然環境の保全等、若者が活躍できる、若者の力を必要 とする現場が多くあります。



□ 若者を取り巻く課題と状況

次の社会を担う若者を育むことは、重要なテーマです。

しかしながら、我が国は若者をめぐる様々な問題に直面しています。当然、若者といっても、一人ひとり異なり、またおかれている状況も異なりますが、若者をめぐる問題としては、仕事に就けない若者達、ニート状態の若者達、社会的ひきこもりの増加など定量的なデータもあります。また定性的なものでもコミュニケーションが苦手、積極的に行動できないなど、若者の持つ力の低下を指摘する声もあります。

平成21年度の青少年白書によると、いわゆるニート状態の若者は、平成20年度には約64万にと推計され、働くことに困難を抱える若者が多く存在していることを表しています。

自立とは何か、は難しい問いですが、社会生活を営む上で必要とされるのは、社会的自立と経済的な自立です。特に社会的な自立に向かっていくうえでは、幼年期から青年期までの環境や多様な経験、出会いなど様々な要素が必要とされますが、近年注目されていることの一つは、自然体験活動と成長の関係です。

また、いきづまっている若者の中には、自分の存在意義を感じることができなかったり、そしてそれが自信のなさにつながってしまっているケースも多くあります。

環境保全活動は、自然体験という側面と、社会(他者)に貢献する実感を得ることができるという点で、この2つの重要な要素を満たし、若者が育つフィールドとしても重要な役割を果たしうると考えています。

トチギ環境未来基地の3年間の目標

①5,000人

平成26年末までに、5,000人/日の若者達が栃木県の森林や自然環境保全の現場で活動 ※参考数値 栃木県の平成27年度の自然保護活動の年間ボランティア目標数 20,000人

(平成22年9月 栃木県発行 生物多様性とちぎ戦略より)

②10力所、10人

プログラムを通じて関わったフィールドを、プログラムを通じて力をつけたリーダーが自主的に活動を展開していけるようにする。

□ 豊かな環境の保全と、若者の育成の両立を

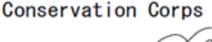


若者の力を引き出し、今、新しい力が必要な環境保全活動や耕作放棄地の再生、地域活動へ若者が積極的に、長期間取り組み、社会の課題を改善していく。その過程で参加した若者が成長する、ステップアップする。そして、その若者が地域に戻ったとき、その地域を支える公共心の高いリーダーとして活躍する。社会は若者にもっと期待をし、若者はもっと力をつけ、多様な価値観を持ち、社会を考え行動していく。その循環を生み出す仕組みをつくることができれば、その地道な歩みは確実により良い社会へつながっていくでしょう。

□ 私たちの使命

私たちは、若者の社会的な力をはぐくむことと、自然環境の保全することを活動の両輪として、より 良い社会をつくっていきます。

- 若者の力で、環境問題、地域の抱える課題を解決していく
- 社会貢献を通じ、次の地域・社会を担う若者をはぐくむ
- 地域の価値や人のつながりを再生し、市民の手による新しい社会をつくる





10-20人の若者がチームで、

6-9ヶ月間、地域に入り

自然環境の保全、農林業の応援、地域活性化

などに取り組む。

若者は貢献を通じて、成長をつかむ。

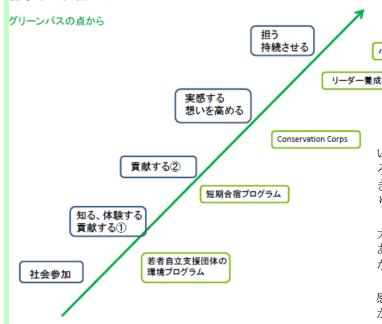
若者が社会的な課題に対して行動し、課題を改善していくと共に、貢献を通じて成長をつかむ。

1.トチギ環境未来基地、活動の背景

□ 事業の位置づけ

現在、各事業を以下のように位置づけています。

各事業の位置づけ



イメージ先行の環境やグリーンの 仕事は、大変な仕事が多い?!

グリーンカラージョブ

バンブーファクトリー

例えば林業にしてみても、「森の中で気持ちいい」、「自然の中で癒される」という側面ももちろんありますが、一方で「蚊がいる」、「斜面がきつい」、「木が重い」というしんどい現実もあります。

そのことも分かった上で、でもやりがいがある、 大切な仕事だ、自分にもできる、やりたいことが ある、と考えることができるかどうかが担い手に なるための過程として重要であると思います。

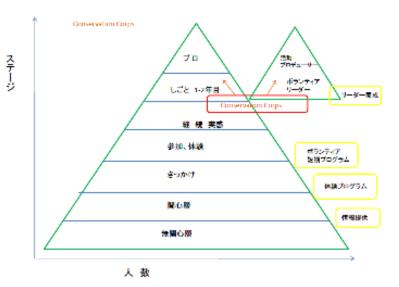
そのためには長期間現場に入り、自分自身で実 感を育むことが不可欠です。Conservation Corps が担うべきはまさにその点であると考えています。

緑のキャリアパス(グリーンパス) をつくる!

初めて環境保全活動に取り組む人 や、専門的に興味がある人まで、幅 広く参加しています。

ニーズに応じながら、実施期間や プログラム内容の充実を図っていま す。今年度も多くの若者が活動に参 加しています。

いろいろな入口から参加できるようなプログラムを設定し、将来的にはグリーンワーカー、グリーンの仕事を担う人材を育成できるような仕組みをつくっていきます。



2. 平成23年度の主な活動と成果

平成23年度は、東日本大震災の影響を受けての活動実施となりました。 栃木での活動実施と並行して、福島県いわき市での復興支援に年間を通して取り組みました。

主な結果

○ Conservation Corpsプログラムの継続(春・秋2回開催)

震災の影響で開催が危ぶまれましたが、ボランティアの参加を得て、継続実施することができました。春と秋の2回プログラムを開催しました。

○ 福島県いわき市での復興支援の開始・継続

年間を通じて、復興支援活動に取り組みました。前半は現地のボランティアセンターへの活動へ参加、後半は、「環境」を切り口に、独自活動を始めました。

○ 多様な若者達の活動への参加の機会づくり

林野庁の森林づくり国民運動推進事業の補助を受け、若者自立支援団体との連携による 荒れた竹林整備活動を年間を通じて行いました。マニュアルの整備も進みました。

平成23年の活動 定量的な実績

≪栃木県内の活動≫ 延べ参加者数 1,025人/日 延べ作業日数 216日間 いわき市での活動を含むと

延べ参加者数 1,602人/日

延べ作業日数 306日間

整備したフィールド・取り組んだ活動

○ 風と緑の幼稚園 創造の森・幼稚園園庭 (宇都宮市) 創造の森では、環境整備を続けながら、森の活用として、子ども達の自然体験活動を行いました。

〇 高根沢第二幼稚園 子どもの森(高根沢町)

年間を通じて、草刈り、遊具づくりを行いました。ほぼ完成し、平成24年5月にはお披露目式開催です。

〇 荒れた竹林の整備(那須烏山市、茂木町)

主に、若者自立支援団体を利用する若者達と、竹の伐採や歩道づくりなどを行いました。

○ 平石地区散策10,000歩コースの整備(宇都宮市)

地域の子どもやお年寄りが地元の自然や文化にふれ合いながら散歩をできるコースの整備を、自治会や 地元団体の方々と始めました。

〇 津波の被害を受けた海岸及び海岸林の整備、清掃活動(福島県いわき市)

いわき市北部の海岸及び海岸林で、ガレキやゴミの清掃活動を行いました。

○ 仮設住宅でのコミュニティ形成支援としての、プランターづくりの会の開催(いわき市)

被害を受けたクロマツを、整備、搬出、製材し、プランターキットをつくり、仮設住宅で交流しながら作りました。 5

Tochigi Conservation Corps 事業

若者のチームによる長期間の環境保全活動、地域活動に取り組むConservation Corpsプログラムは、アメリカで年間25,000人以上の若者が各地で活動に取り組むプログラムをモデルとしています。今年度は「3ヶ月間、1つのチームで環境保全活動に取り組む」プログラムを、2回実施いたしました。

今年度は「3ヶ月間、1つのテームで環境保全活動に取り組む」プロクラムを、2回実施いたしました。 経験を重ねながら、将来的には、6ヶ月間、数チームが同時に作業を実施していけるようなプログラムを 構築していくことを目標としています。自立財源 (Fee For Service) 拡大に向けても力を入れていきます。

□ Conservation Corps プログラム の開催 春・秋

春、秋の2回開催しました。震災の影響もあり、春のプログラム開催が危ぶまれましたが、スタートを 少し遅らせ、参加者を得て実施することができました。

Conservation Corps 2011 春 プログラム概要

期 間 平成23年5月18日 (火) ~ 7月15日 (土)

参加者 プログラム参加者 6名(部分参加含む) 活動への延べ参加者数311人。

生活 共同生活。みんなで自炊。



主な活動と成果

- ① 子どもの森整備、創造の森整備など幼稚園の森づくり。子ども達と自然体験活動を実施。
- ② 荒れた竹林の整備 ③いわき市での災害ボランティア活動への参加。

Conservation Corps 2011 秋 プログラム概要

期 間 平成23年9月5日(月)~11月26日(金)

参加者 プログラム参加者 5名(部分参加含む) 活動への延べ参加者数386人。

生活 共同生活。みんなで自炊。

主な活動と成果

- ① 子どもの森整備、創造の森整備など幼稚園の森づくり。子ども達と自然体験活動を実施。
- ② 荒れた竹林の整備 ③平石地区10,000歩コースの整備
- ④ いわき市での災害ボランティア活動への参加

創造の森 プロジェクト

* 学校法人 自然保育学園 風と緑の幼稚園

[栃木県宇都宮市下栗町]



コンセプト・テーマ

- ☆子ども達が発見や驚き、命の営み に出会うことができる森。
- ☆好奇心や創造性、子ども達の無限 の可能性を引き出す森。

作 業 日 数

28目

作業人数

のべ 149人

これから

- ☆季節ごとに子どもたちと遊ぶイベント を企画し、実施していきます。
- ☆ゾーンごとに更に楽しめる場所にできる ように改築予定です。





土の中にはなにがあるかな?



木の名前プレートも広がります



のびのび走り回ります



森の空気はやっぱりおいしいです

~ 一年間の流れ ~

年間整備

- ・下草刈り
- ・遊具や看板の 修復
- 枝打ち
- 木のプレート製作

イベント企画

・春、夏、秋、冬の季節ごとに 散歩や工作、ゲームなどを 行いました。

口 子どもの森 プロジェクト

* 学校法人 高根沢育英会 高根沢第二幼稚園

[栃木県塩谷郡高根沢町]



コンセプト・テーマ

☆子ども達がたのしく遊べる森。☆子どもたちが主人公になれる森。☆地域の方にも愛される森に

作業日数

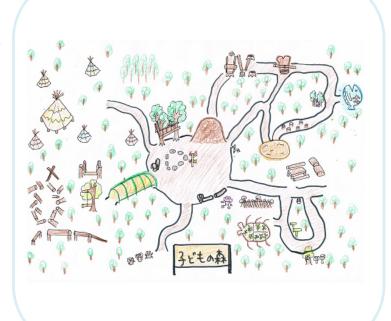
46目

作業人数

のべ 315人

これから

☆平成24年の春に完成しました。 年間を通して草刈りなどのメンテ ナンスや子どもたちと遊べるよう なイベントも企画中。



みんなでアイディアを出し合いました



森の中には遊べるしかけがたくさん!



大きな木も人海戦術で運びます



子どもたちに喜んでもらえるかな?

~ 一年間の流れ ~

○年間整備

- 下草刈り
- ・ゾーンごとに遊具やしかけ、看板 の制作を実施

(ぼうけんの森、食料の森・学び の森、たんけんの森、ティピィ)

□ 荒れた竹林の整備(那須烏山市、茂木町)

★栃木県那須烏山市 *栃木県苦賀郡益子



コンセプト**・テーマ**

☆荒れた竹林で、間伐作業。 遊歩道づくりや、伐採した竹の活用も進める。

那須烏山市のフィールド① 河川周辺





整備前

整備後

那須烏山市のフィールド② 積翠周辺





整備前



整備後

茂木町のフィールド 富士坪の滝周辺





整備中



整備後

□ 市貝町の人工林

* 栃木県芳賀郡市貝町



コンセプト・テーマ

☆手入れが行き届いていない森を 間伐作業によって再生。

また、森林の状況についての学習 や、作業技術研修の場としても活 用。



☆間伐作業における課題の一つである林 地残材(間伐したまま森林に放置された ままの材木材)の活用があります。私た ちは、子どもが遊べる森に設置するオブ ジェの材木としてなど、いろいろな方法 で活用していく予定です。



□ フラワーサポーター事業

活動内容

一般社団法人栃木県若年者支援機構が 栃木県より受託し実施した事業、 スポレク祭「フラワーサポーター事 業」に協力しました。

間伐材を利用したプランター2,000個の制作と、プランターを活用して花を育ててくれる小学校を訪問しての環境教育プログラムの実施を行いました。









福島県いわき市での活動概要

初期目標の達成に向けて、海岸林の調査等を進めながらも、緊急性の高さから初期のボランティア活動は、いわき市の生活エリアで津波の被害を受けた家屋の片づけ、泥出しなどの作業に参加することとした(5月~9月)。

まず、生活エリア、生活環境の復旧に取り組み、その作業ニーズがなくなってきたころから、海岸、海岸林の環境・景観再生活動に着手した(9月末~平成24年3月末)。

現場活動日数 90日 延ベボランティア参加者数 577人

活動内容

1. 現地災害ボランティアセンターの活動に参加 計 39日間 ボランティア263人

いわき市勿来地区、小名浜地区、いわき市、久ノ浜地区の各ボランティアセンターでの活動に、主に栃木県でボランティアを募集し、参加。家屋の片づけ、泥出しなどを行った。

2. 海岸及び海岸林の清掃作業 計31日間 ボランティア198人

四倉〜沼の内の間の海岸、及び海岸林のうち、流出ゴミの多いエリアを重点的に清掃。 450のゴミ袋917袋分の小さなゴミと、タイヤ、家電製品など多数を拾い清掃することができた。

3. 海岸林の整備及びプランターづくりの会 計14日間 ボランティア 93人

被害を受けたクロマツを製材し、プランターキットをつくり、仮設住宅でプランターづくり交流会を2回(2/12、3/18)開催した。男性の参加者を多く得ることを目指し、男性が参加しやすい活動とした。 仮設住宅からは、2回の開催で、112名の参加を得た。男性率は、約20%であった。

4. 自然体験フィールド整備活動 計6日間 ボランティア 22人

市民の自然体験活動の機会を失く事がないように、湯ノ岳山荘周辺の里山自然体験コースの整備した。平成24年度40人程度の子ども、親子向けの自然体験プログラムを行えるよう準備する

5. 災害ボランティアリーダートレーニングプログラム 10月24日~25日に開催。14人参加。

災害ボランティアの現場活動の質の向上、安全性の向上に向けて、リーダーへのトレーニングプログラムを実施。宮古、気仙沼等からも参加。

6. その他の活動

栃木県への避難者の支援活動、栃木県内での被災地の情報発信活動、いわき市中央台仮設住宅での活動に参加などにも取り組んだ。

現地災害ボランティアセンターの活動へ参加

(勿来地区、小名浜地区、いわき市、久ノ浜地区)













海岸及び海岸林の清掃作業 (夏井川河口周辺)











プランターキット作りと、仮設住宅でのプランター作りのづくりの会開催



クロマツを製材



皮むきをして



焼印もつくります



みんなで楽しく



プランターを組み立てます



完成したら、お食事会☆

プランターキット作りと、仮設住宅でのプランター作りのづくりの会開催







災害ボランティアリーダートレーニング







特定非営利活動法人トチギ環境未来基地 平成23年度 事業報告書

平成24年6月10日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地 事務局 発行責任者 塚本 竜也

連絡先

特定非営利活動法人トチギ環境未来基地 〒321-4104 栃木県芳賀郡益子町大沢2584-1

電話/FAX 0285-81-5373

E-mail tochigi@conservation-corps.jp URL http://conservation-corps.jp/tochigi/

